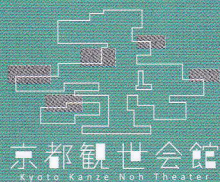


Doors open 10:00

Kyoto Kanze Regular Performances 22 Sun Mar. 2026 11:00 a.m.-4:00 p.m.



京都観世会三月例会

令和8年3月22日(日) 午前11時 開演 (午前10時開場)

〈能〉

Yoroboshi

弱法師 盲目之舞

河村晴久

〈狂言〉

Shatei

舎弟

茂山忠三郎

〈能〉

Uneme

采女 美奈保之伝

味方 玄

〈能〉

Kokaji

小鍛冶

樹下千慧

TICKETS 2/110:00 発売

一般前売指定席券(1階) ¥9,000
Advance reserved seat (1st floor)

一般前売自由席券 ¥7,000
Advance non-reserved seat

一般当日券(自由席) ¥7,500
Same-day (Non-reserved seat)

学生券(2階自由席) ¥3,000
Student (2nd floor)

※通信講座受講生、放送大学、
老人大学は一般料金です。

WEB予約で座席指定できます。
電子チケットチケットねすQも
選択できます。



チケット販売

お問合せ・お申込み
京都観世会館

Tel: 075-771-6114

<http://www.kyoto-kanze.jp>

〒606-8344

京都市左京区岡崎円勝寺町 44
(東山仁王門東入)



京都観世会館 HP

Noh Play Theater
Kyoto Kanze Kaikan

会場 京都観世会館



地下鉄東西線「東山駅」①番出口から徒歩約5分
京都市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車
徒歩約3分
「東山仁王門」下車徒歩約5分
東隣に有料駐車場(約20台)がございます。



日本語 Map



English Map

京都観世会三月例会

後徳丸 河村晴久
弱法師 盲目之舞

高安通俊 江崎欽次朗
大鼓 山本哲也
小鼓 吉阪一郎

笛 赤井啓三

間 下人 茂山十三郎

舎弟

弟 茂山忠三郎

教え手 山口耕道
兄 茂山十三郎

休憩二十分

(一時頃)

采女 里女 味方 玄
美奈保之伝

旅僧 宝生欣哉
從僧 宝生尚哉
從僧 小林 努

大鼓 河村 大
小鼓 久田舜一郎
笛 杉 市和

間 里人 山本善之

休憩十五分

(仕舞)
笹之段 吉田潔司
善知鳥 古橋正邦

(能)
大鼓 河村凛太郎
大鼓 前川光範
大鼓 古田知英
大鼓 左鴻泰弘

(地謡)
松井美樹
浦田保浩
杉浦豊彦
吉田篤史

(後見)
大江信行
片山九郎右衛門

(地謡)
宮川卓也
寺澤拓海
大江泰正
橋本忠樹

(後見)
吉浪壽晃
井上嘉介

(地謡)
青木真由人
谷 弘之助
井上裕之真
宮本茂樹

(後見)
黒川 亮

(地謡)
深野貴彦
河村晴道
林喜右衛門
松野浩行

後見・地謡

(三時頃)

童子 樹下千慧
靈狐 樹下千慧

三糸宗近 原 大
勅使 原 陸
大鼓 河村凛太郎
大鼓 古田知英

大鼓 前川光範
大鼓 左鴻泰弘

(後見)
大江広祐
青木道喜

(地謡)
吉田和史
河村浩太郎
河村世志子
河村和貴

(後見)
田茂井廣道
浦部幸裕
味方 團
橋本光史

(能)
芦刈 大江 泰正

(能)
蟹山伏 茂山十三郎

(狂言)
蟹山伏 茂山十三郎

(能)
杜若 吉浪 壽晃

(能)
国栖 深野 貴彦

附祝言

附祝言

(終了予定 四時過)

解説

河内国・高安の里の高安通俊は、人の謠言を信じてわが子を追放してしまった。そのわが子を不憫に思い、二世安楽を祈る為、通俊は天王寺で七日間の施行を行う。今日はその満願の日。そこへ一人の盲目の青年、弱法師がやってくる。通俊の施行を受けるその時、梅の花が弱法師の袖に散りかかり、弱法師は梅花も仏の慈悲と感謝する。そして天王寺縁起を曲舞に語る。通俊は弱法師がわが子・俊徳丸であることに気づく。人目をばばかり、夜になってから名乗ろうと、通俊は日想殿(西に向かい日没を見て極楽浄土を觀想すること)をすすめる。弱法師は入り口を見、またかつて見慣れた難波の景色を心の眼で見渡す。しかし盲目ゆえのつらさ、恥ずかしさをも垣間見せる。やがて夜も更け男子も静まり、通俊は名を明かし、俊徳丸を伴い高安の里へと帰るのだった。

難波ののどけさの中、難波の寺の慈悲が舞台を包むかのような春らしい能である。乞食の悲惨さを描くのではなく、その逆境の中で、悟りの境地ともいえるような澄みきった弱法師の心象風景を描こうとする。そのように作品自体も自己運動により洗練されていったといわれる。

采女 美奈保之伝

宗近 一見の僧が、都から奈良・春日の里にやってくる。そこへ一人の女性が現れて猿澤池に僧を誘い、用を頼む。僧が訳を尋ねると、昔ある采女が帝に恋したと叶わず、この池に身を投げたと言われ、さうに「吾妹子が寝たれ髪を猿澤の池の玉藻と見るぞ悲しき」の歌は帝がこの采女に対して詠んだ歌であると語り、実は自分はその采女の幽霊と言うや、池水の底に消えてしまふ。

宗近に仕える者が、宗近の不思議な体験を再度語り、壇の用意を人々に促す。宗近は身丈度して待つ。すると稲荷明神の使い、靈狐が現れて宗近の相槌を勧め、帝の剣を見事に打ちあげる。表に「小鍛冶宗近」、裏に「小狐」と打たれた二つの名刺は勅使に渡され、靈狐は雲に乗って稲荷の峯に去って行った。

小鍛冶 一条帝は、ある夜靈夢を蒙り、剣を打てとの勅使を宗近の許へ下す。宗近は、それ程の大事の剣ならば、自分に劣らぬほどの相槌がなければ成就しないと辞退するが、勅命には敵わず承引する。宗近が神力を頼みに稲荷に参ろうとすると、その途上、童子が行き合う。不思議にも、剣の勅の事を早くも知っているこの童子は、唐土と日本の剣の奇譚を語り、中でも日本武尊が夷を退けた草薙の剣のことを、委しく仕方話に語ってみせる。宗近が不思議に思っている名を尋ねると、剣を打つ壇を飾り整えて待てと言い、力を貸すことを約束して稲荷の方へ消えてゆく。

お客様へお願い

- ◆都合により出演者に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ◆許可なき写真撮影・録音・録画はお断りいたします。
- ◆上演中は、携帯電話など音や光を発する機器の電源はお切りください。
- ◆見所客席での飲食は遠慮ください。
- ◆東隣に有料駐車場がございます。満車の際は岡崎公園市営地下駐車場等をご利用ください。

【表紙写真】

《采女》片山九郎右衛門
金の星渡辺写真場撮影

次回予告

京都観世会四月例会

令和8年4月26日(日)

午前11時開演

(能) 芦刈 大江 泰正

(狂言) 蟹山伏 茂山十三郎

(能) 杜若 吉浪 壽晃

(能) 国栖 深野 貴彦